様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 15 日現在

機関番号：35304
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2013
課題番号：22730643
研究課題名（和文）　人形劇専門家との連携による幼児の情操教育と保育者養成への還元
研究課題名（英文）　Cultivation of Aesthetic Sensitivity of the Infant by Cooperation with Puppet Play Specialists and Reduction to Child-care Professional Training
研究代表者
浅野泰昌（ASANO YASUMASA）
くらしき作陽大学・子ども教育学部・講師
研究者番号：60532661

研究成果の概要（和文）：人形劇と幼児は，「無生物に対する生命感の付与と感受」という本質的要素を共有しているために親和性が高く，人形劇は幼児の情操教育に有効であると考えられる。これに基づき，人形劇専門家ならびに保育者を志望する学生と協働し，人形劇表現の特質をふまえた児童文化財を制作し，地域公演を通した幼児の情操教育を展開した。学生集団による部活動の形態を採用し，組織運営や制作・練習・上演の計画と実施など，「実体験を通した学び」や「教えることによる学び」によって自己学習力のある創造的集団の形成を試み，保育者養成に取り組んだ。参加学生は，児童文化財の制作と上演の知識と技術や，その基礎となる思考力・判断力・行動力・コミュニケーション力を培い，総合的な実践力を高めたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The puppet play and the infant are sharing an essential element that grant and reception of a feeling of life for objects. Therefore, the puppet play is effective in infantile cultivation of aesthetic sensitivity. Based on this, it collaborated with the puppet play specialists and students who aspired for child-care professional, juvenile cultural assets were made, and the cultivation of aesthetic sensitivity of the infant through a public performance was carried out. This practice was performed by club activities of the students that adopted "active learning" and "learning in teaching". Participating students cultivated their practice capability that was the knowledge and skills of juvenile cultural assets based on ability to think, judge, action and communicate.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：教育学
科研費の分科・細目：教育学
キーワード：情操教育　幼児　人形劇　児童文化　保育者養成

１．研究開始当初の背景

本研究課題の背景には，幼児教育及び保育に関わる恒常的な課題がある。第１に幼児の情操教育及び関連する児童文化財について，第２に保育者養成についてである。

(1)「教育基本法」（2006 年改訂）において，改めて明記された通り，幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である。教育の課題として「生きる力」の育成が挙げられる今日では，幼児期にその土台となる豊かな人間性が培われる必要がある。

我々人間は，高度な文化を培う能力を得たことで，社会性を獲得し文明を築きながら今日に至る発展を遂げてきた。したがって，人間性の重要な要素として文化を捉えることができる。また，文化は世代を越えて継承されることが本質的に必要である。そのため，将来の社会を担う子どもたちには，これまでに培われてきた文化の価値を認め，自身がそれを継承し創造的に発展させる役割を担っていることへの理解が求められる。それは同時に，子どもの豊かな人間性の育ちに繋がるものである。ここに，文化に価値を感じ，その享受に親しむ豊かな人間性を培うことが今日の教育における課題として挙げられ，幼児期の情操教育の必要性が導かれる。

情操教育とは，文化的な価値に対する豊かな感受性や自己表現の意志及びその能力を育成することであり，外界の文化的価値を感受し，それに感動し自己の内部で深く味わい，その感動や感情を他者に伝えたり，自己表現活動を行うなどの一連の営みを経験することは，情操教育に有効であると考えられる。そのひとつとして，舞台芸術の享受が挙げられる。本研究課題では，家庭や保育の現場において幼児の生活に密着している児童文化財の中でも，人形劇に焦点を合わせ，その特質と幼児の発達段階の適合性に着目した。

人形劇は，物体である人形に対して神性や物語の登場人物などを象徴させる人間特有の機能に基づき，人間の長い歴史の中で培われてきた文化であり，現在においても我々の生活の中に息づく芸術である。その位置づけは，視聴覚の両面に働きかける総合芸術であり，物語の進展を伴った時間芸術の側面を備えたものである。人形の操作方法や上演形態など，世界中に多様な人形劇が存在するが，全てに共通する特質は，「人形などの物体を舞台表象とし，表現の主体として用いる演劇」である。日本においては，一般的な「現代人形劇」だけでなく，伝統文化として継承されている「伝統人形芝居」が各地に息づいており，世界に類例を見ない豊かな文化的風土と創造的基盤の上に，多様な年齢層の観客を多数動員するものとして認識されている。一方，人形劇という芸術分野の課題として，研究と実証が求められていることが把握された（三宅・浅野,2007）。このような背景のもとに，人形劇関係者が連携して設立した「一般財団法人とらまる人形劇研究所」及び「附属人形劇学校パペットアーク」などの事業が取り組まれ（浅野,2008），より一層の研究活動の推進が必要とされた。

(2)幼稚園及び保育所などにおける幼児教育において，最重要の人的環境は保育者（保育士，幼稚園教諭）である。生涯学び続け，主体的に考え，行動できる人材としての保育者の育成は恒久的な課題であり，幼児教育の質的向上に直結する重要なものである。幼稚園及び保育所が，子どもを中心とした地域コミュニティの核として機能するためには，資質と能力のある優れた保育者が必要不可欠であり，その実践力は多岐にわたるものである。

幼児の文化的活動の根幹となり，情操教育に直結する各種の児童文化財（人形劇，絵本，紙芝居，ペープサート，パネルシアター等）は保育現場に欠かすことのできないものであり，その知識と技術は全ての保育者に求められる。保育者養成校においては，その実践力を育成するために，正課内外で様々な取り組みが成されている。児童文化財の実践力とは，単に知識と技術を習得するだけで培われるのではなく，関連する諸要素を包括的に理解し，それらを経験を通して実践の知恵へと昇華させる過程で養われるものである。こうして得られた実践知の体系を伝える方法や，そのための組織形成などが研究課題として挙げられる。

以上のような背景のもと，本研究課題は，専門人形劇団と連携し，専門的知識の提供や指導・助言を受けながら，保育者を志望する学生集団と協働し，人形劇を中心とした児童文化財の公演を展開し，幼児の情操教育と実践力のある保育者養成に一体的・包括的に取り組んだ。

２．研究の目的

本研究課題においては，次の２点を目的とした。

(1)人形劇専門家との連携によって，人形劇表現の特質や幼児との親和性について検討し，幼児の発達段階に適した芸術鑑賞の題材としての人形劇の位置づけを明確にする。また，人形劇をはじめとした児童文化財による舞台芸術の幼児期の情操教育における有用性について考察する。

(2)人形劇を中心とした児童文化財による幼児の情操教育を展開する過程で，実践力のある保育者養成に結びつけ，研究成果の即時的な還元を図り，その有用性について考察する。

３．研究の方法

本研究課題では，以下のような研究方法で研究を遂行した。

(1)人形劇専門家と連携した協議，作品分析，作品制作，公演活動によって，人形劇表現の特質と幼児の親和性に関する理論構築を行った。連携の中核となったのは，「全国専門人形劇団協議会」，「日本ウニマ（国際人形劇

連盟日本センター)」,「日本人形劇人協会」の連携によって設立された「一般財団法人とらまる人形劇研究所」及び附属「とらまる人形劇団」(香川県)である。加えて,「人形芝居くりちゃん」(静岡県),「劇団にんぎょう畑」(埼玉県),「人形劇団ばんび」(愛知県),「よろず劇場とんがらし」(愛知県),「人形芝居燕屋」(長野県)等,複数の専門人形劇団と協働し,適宜,直接的な指導・助言を受けた。

(2)フィールドワークとして,人形劇を中心とした児童文化財の公演を実施し,幼児に対する情操教育を行う。具体的には,先ず,人形劇専門家からの指導・助言に基づき,課題申請者と保育者及び教員を志望する学生との協働により,児童文化財を制作する。次に,大学周辺地域の作品鑑賞型の子育て支援のニーズを発掘し,公演依頼を募る。これに応じて,公演を企画し,学外公演(アウトリーチ)を行い,児童文化財の上演を通した幼児の情操教育を実施する。これにより,地域コミュニティの子育て支援に直接貢献すると同時に,研究成果の社会還元を図る。

(3)上記(2)を通して保育者養成を行う。具体的には,児童文化財の制作と上演を通して,その技術と知識を学び,実体験に裏打ちされた実践力を養う。これらの学習に際して,部活動という形態を採り入れる。学生主体の企画・運営や集団による制作・稽古・公演を展開させ,学生相互(同学年・異学年)の指導によって知識・技術・実践知の継承を行い,「Active Learning(実体験を通して学ぶ)」や「Learning in teaching(教えることで学ぶ)」を実践する。

４．研究成果

(1)人形劇の特質と幼児の知覚との関係性

人形劇の上演に際して,無生物である人形は,意図的に操作されることで生命感(形態・動き・音声等)を得て「蘇生(animation)」し,舞台表象として表現の主体となる。この特質を基に,人形は独自性のある表現媒体となり,様々な人形劇表現の基盤となる。これにより,①登場人物等の理想的具現化,②観客の想像力の喚起による表現の補完,③諸事象の普遍的表現の３点が実現される。

一方,幼児期の知覚には,無生物に生命感や感情を感じ取る「アニミズム」の特徴が見られる。これにより,幼児が人形劇を鑑賞する際,人形の生命感や表現効果はより強く幼児の感受性に働きかけることが考えられる。

このように,人形劇と幼児は「無生物に対する生命感の付与と感受」という本質的要素を共有しており,両者の密接な関係性が把握された。したがって,人形劇は幼児の発達段階に適合し,享受され易い芸術領域であり,情操教育の効果も高いと考えられる。

また,人形劇表現の特質である人形を用いた理想的具現化や拡大表現は,他の舞台表現における表現媒体にも反映できると考えられる。人形劇表現の追究によって,他の児童文化財(影絵劇,パネルシアター,演劇等)の表現を豊かに分かりやすくしたり,想像による補完を促すことが示唆された。

(2)児童文化財の制作および公演の展開と保育者養成への還元

研究成果(1)に基づき,人形劇を中心に児童文化財を制作し,その公演を通して幼児の情操教育を行った。目的(2)と結びつけるため,制作と公演は,保育者や教員などの子どもに関連する専門職を志望する学生との協働によって実施した。その中核となったのは,課題申請者が顧問担当教員を務める「くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと」の学生である。これは,児童文化財の公演を通した地域貢献と学生養成を一体的に行う学部所管の教育機関である。人形劇専門家による専門的知識の提供と指導・助言を受けながら,人形劇を中心とした児童文化財の制作と,学内外における公演を展開した。とりわけ,学外公演(アウトリーチ)に注力し,幼児とその保護者に対して,直接作品を提供することで,児童文化財による情操教育と地域の子育て支援に貢献した。

2010 年度から 2012 年度にかけて制作もしくは上演した演目は,次の通りである。研究成果(1)に基づき,人形劇の他にも,近接する表現方法の作品を制作し,参加学生の保育者としての資質と能力及び実践力の向上に結びつけた。

①人形劇(８作品)

- 『たまごにいちゃん』
- 『ぼく,おおきくなる!!』
- 『ぐりとぐら』
- 『北風と太陽とうさぎとかめ』
- 『ハグタイム』
- 『こころの花びら』
- 『わがまま赤ずきん』
- 『いっぴきのオオカミ!!』

②影絵劇(１作品)

- 『四季がおしえてくれたこと』

③パネルシアター(５作品)

- 『ねこのおいしゃさん』
- 『ふしぎなたまご』
- 『すてきなぼうしやさん』
- 『イグアナレストラン』
- 『パレット―やさいとくだもの―』

④大型絵本（５作品）
・『ねずみくんのチョッキ』
・『はなすもんかー！』
・『おまえうまそうだな』
・『くまのコールテンくん』
・『にゃーご』
⑤その他（２作品）
・食育劇『カムンジャー』
・食育劇『カムンジャー２』

以上の作品を主な演目として，学内外で公演活動を展開した。2010～2012年度の公演実績は，2010年度33公演（学外22公演），2011年度45公演（学外31公演），2012年度51公演（学外33公演）の合計129公演である。主な公演依頼先（依頼元）は**表１**に示す通りである。

各年度末には，「人形劇場とらまる座」において特別公演を行い，複数の人形劇専門家による講評会を開催し，活動理念，表現技術，集団機能の向上に取り組んだ。

表1．くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと公演実績（2010～2012年度）

公演依頼先	公演数
親子クラブ・母親クラブ	20
保育所	9
幼稚園	4
子育て支援センター・子育て広場	7
学童保育	16
児童館	8
公共施設(公民館，図書館　等)	11
その他(イベント，研究大会 等)	22
学内行事	32
計	129

図１．「くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと」による人形劇公演の様子

以上の取り組みを通して，参加学生は，児童文化財の制作と上演に関する知識と技術を学習し，公演を企画し実行することで，実体験に裏打ちされた実践力を培った。また，学生集団による部活動の形態を採り入れたことで，協働体験を通した自己の確立と他者の受容が促された。さらに，他者に対して指導・助言を行う場面を多く設定したことにより，学生が自身の実践知を言語化し，体系的かつ計画的に指導する姿が見られた。この営みを通して，指導した学生自身の実践力の向上が見られ，保育技能の学習と向上における「Learning in teaching（教えることで学ぶ）」の有用性が示された。また，主体的かつ創造的な学習集団に所属することで，個々の学生の自己学習力の向上が促されたと考えられる。これらの取り組みを発展させ，実証的研究を推進することが課題である。

(3)実証的研究の推進と拠点形成の課題

本研究課題に取り組む途中で，「一般財団法人とらまる人形劇研究所」の移転が決定した。主な理由は，香川県東かがわ市の施設である人形劇場及び博物館等の指定管理費の減額などである。研究所はこれらの指定管理を終了し，業務を人形劇に関する理解のある適切な別団体に引き継ぎ，附属人形劇学校を閉校し，研究と上演(劇団)機能を岡山県倉敷市に移転した。行政と人形劇専門家の連携に基づいた文化芸術による地域振興と実証的研究の拠点として，全国に類例のない取り組みの最中であった。乳幼児及び児童期の芸術鑑賞に関する研究の推進には，人的・物的・社会的環境の整った拠点があることが望ましい。将来の担い手である子どもの育成に関わる重要な分野であり，研究拠点の再構築が求められる。地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図る「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」に一端が見られるように，大学はその受け皿となりえるものであり，実践と研究の両輪を備えた拠点形成が必要である。

５．主な発表論文等
（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

①<u>くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと</u>　人形劇パネルシアター『わがまま赤ずきん』，第 51 回中・四国保育学生研究大会，2010 年 12 月 4 日，岡山(美作大学)

②くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと　影絵劇『四季がおしえてくれたこと』，第 52 回中・四国保育学生研究大会，2011 年 12 月３日，愛媛(松山東雲女子大学)

③くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと　読み聞かせと演劇を組み合わせた大型絵本の表現―大型絵本『おまえうまそうだな』の上演を通して―，第 53 回中・四国保育学生研究大会，2012 年 11 月 24 日，島根(島根県民会館)

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕
①くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと　人形劇を中心とした児童文化財公演，2010 年４月４日～2013 年３月 27 日，岡山（倉敷市立玉島幼稚園 他）・香川（人形劇場とらまる座），徳島（国民文化祭・とくしま 2012）・長野（いいだ人形劇フェスタ 2012）　他，計 129 公演

②浅野泰昌　日本人と人形劇，平成 22 年度岡山県生涯学習大学講座,2010年８月18日，岡山（くらしき作陽大学)

③浅野泰昌　日本の文化と物語―人形劇を楽しもう―，平成 23 年度倉敷市大学連携講座，2012 年１月 22 日，岡山（ライフパーク倉敷)

④浅野泰昌　子どもと人形劇の未来について考える，人形劇場とらまる座開館 20 周年記念シンポジウム，2012 年９月 16 日，香川（人形劇場とらまる座)

６．研究組織
(1)研究代表者
浅野　泰昌（ASANO YASUMASA)
くらしき作陽大学・子ども教育学部・講師
研究者番号：60532661

(2)研究協力者
①大久保　一康（OKUBO KAZUYASU)
一般財団法人とらまる人形劇研究所・芸術監督，人形劇団ばんび・代表
②衣斐　美和子（EBI MIWAKO)
一般財団法人とらまる人形劇研究所・代表理事
③栗田　正明（KURITA MASAAKI)
人形芝居くりちゃん・主宰
④本田　誠（HONDA　MAKOTO)
一般財団法人とらまる人形劇研究所・理事，とらまる人形劇団・劇団員
⑤中村　美恵（NAKAMURA　MIE)
一般財団法人とらまる人形劇研究所・理事，とらまる人形劇団・劇団員
⑥管　麻未（SUGA　ASAMI)
とらまる人形劇団・劇団員
⑦幾田　美恵子（IKUTA MIEKO)
人形劇団ばんび・劇団員
⑧松村　歩実（MATSUMURA AYUMI)
人形劇団ばんび・劇団員
⑨川田　陵（KAWADA RYO)
劇団にんぎょう畑・主宰